

令和元年度 太陽の家しいの実学園 自己評価結果(公表)

公表日 令和2年2月19日

社会福祉法人 光友会 太陽の家しいの実学園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など	備考
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか		○	<ul style="list-style-type: none"> ● 構造化クラスは、保育室の活動スペースが小さいので手狭に感じる。 ● 子どもの特性を捉え、危険がないよう常に考えながら療育を行っている ● クラス活動によっては、狭いと感じることがある。 ● 構造化クラスでは、個別スペースを用意しているが、スペース的にかなりきつい状況である。 ● 保育室が児童数に対して狭く重症心身障害児の療育では危険が伴う。 ● 肢体クラスでは、座位保持椅子が必要不可欠でスペースが必要だが、現状では知的の保育室と変わらず、非常に狭く感じる。 ● 狭いのに物が多く、整理されていない状況である。 ● 子ども10人に3人の職員では子どもの状態により厳しい時がある。 ● 特に構造化クラスには、広さと収納スペースが必要と思うが、かなり手狭な状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 構造化クラスは、パーティションやワークエリアなどがあり、狭いと認識しています。 ○ 収納スペースが少なく、廊下等に置かざる得ない状況です。
	2	職員配置数は適切であるか	○		<ul style="list-style-type: none"> ● 年少児のクラスでは、保護者対応を含め、もう少しゆとりが欲しい。 ● 一人ひとりに手を掛けられず療育が十分できない時がある。 ● 子ども的人数を考えると10人の児童に4人の職員配置が望ましい。 ● もう少し職員の手があると療育の質を上げられると感じている。 ● 現状でも国・市以上の人員配置基準の配置を行っている。 ● 各クラスに常勤最低2人の配置しないと支援計画の策定を含め、活動のリーダーの負担が1人の常勤にかかり過ぎる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国・市の配置基準以上に職員配置を行っていますが、児童の状況や活動内容によっては、不足を感じる場合があります。
	3	生活空間は、本人に分かりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮がなされているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ● 衝立を使用して、朝の支度などでは区切って分かり易くしている。 ● 刺激になる玩具を見えなくするなど子どもが集中しやすい環境にしている。 ● 構造化することで安定した児童がいる。 ● 構造化しているが、細かい部分で修正・改善が必要である。 ● 視覚的支援を行っているが、十分なレベルではない。 ● 自閉症児クラスでは、児童の特性に合わせて構造化を行い、視覚支援に配慮している。 ● 各クラスとも個々に合わせた環境整備及び情報伝達に努めている。 ● 児童数に対して、保育室が狭く、個々に見合った環境が作れない。 ● 肢体児の雨天での送迎時は、屋根のある乗降場が必要である。 ● バリアフリー化がなされていない部分もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもに分かり易ように視覚的な配慮等の構造化に努めていますが、施設の老朽化が著しく、バリアフリー等は、十分ではありません。 ○ 施設の再整備に向けて、市との調整を開始しています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ● 壁の塗装の剥がれ、マットなど汚れなど清潔感のあるものではない。 ● 施設が古くホールはエアコンも十分効かない状況である。 ● トイレの水の流れが弱く、汚物が流れにくいので改修が必要である。 ● 施設の経年劣化、老朽化が著しい。 ● 保育室やトイレなどの壁の塗装が剥がれて汚い。 ● 施設の老朽化が目立つが、日々の清掃と消毒に十分配慮している。 ● 清掃は日々行っているが、施設の老朽化に伴う環境不備がある。 ● 床が抜けそうな保育室やトイレのカビ、排水の詰まり等で不衛生。 ● 各クラスの収納スペースが少ないため、活動スペースが手狭である。 ● 施設の老朽化は仕方ないが、ガムテープで補強するなど、一層見栄えの悪い状態となっている。 ● 建物が非常に古いので出来るだけ清潔にするように心がけているが限界がある。 ● 玩具類の消毒を定期的に行うなど、衛生面には配慮している。 ● 春夏冬の長期休みに合わせて大掃除の日を設け、徹底的に掃除したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 建物が既に4年を経過して老朽化しており、トイレなどの修理・改修が続いています。 ○ そのため、日々の清掃や消毒には、十分配慮しています。 ○ 施設再整備に向けて、利用者や保護者にアンケート調査を今年の7月に実施しています。 ○ 今後も継続的に施設再整備の調整を市と積極的に行っていく予定です。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に広く職員が参加しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ● クラス主任会議を開催し、園運営、業務改善について話し合っている。 ● 広く職員が意識して取り組んでいるのか疑問を感じる時がある。 	
	6	保護者向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善に繋げているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ● 保護者アンケート等で保護者からの要望が多い事項については、所内で検討・調整を経て、改善できる部分の改修に努めている。 ● 年2回、全体懇談会を開催し、保護者の意見・意向等を確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特にトイレ等の改修に関する保護者の要望が多くありますので、市の改修予算の確保に向けて調整を行っています。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を事業所の会報やホームページ等で公表しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ● 保護者が多数集まる懇談会で書面で評価結果を伝えている。 ● 昨年度の評価結果を元に職員会議で話し合う機会を持ち、その結果踏まえて日々の療育に当たるよう園内の確認を行った。 ● 保護者評価、自己評価結果は、HPへの掲載、その他の方法で公表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度から自己評価と保護者評価を実施しています。評価結果は、ホームページ等で公表しています。 ○ 評価結果を踏まえ、改善努力に努めています。

	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●外部専門家(スーパーパイザー)の助言内容を受けて、支援内容を修正・見直しする職員研修会を年2回行っている。 ●第三者評価は、実施していない。 	○第三者評価は受けていませんが、外部の療育の専門家を年2回招へいして、療育内容などの指導・助言を受ける研修機会を確保し、職員研修の位置付けで実施しています。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●週末などに研修機会があり、自由に参加できる環境だと有難い。 ●職員研修会をもっと増やして欲しい。 ●研修担当者として職員研修の充実に努めているが更なる充実が必要。 ●今年度から職員の階層別研修会を実施し、受講者から好評である。 ●常勤、非常勤に関わらず、研修機会を提供しているのは良いと思う。 ●研修は行っているが、資質の向上に繋がっているとは言えない。 ●外部研修は、プライベートでの参加も含め自己研鑽に努めている。 ●色々な研修を行っているが外部研修も含め、更なる充実を図って欲しい。 	○今年度から階層別研修を実施し、階層ごとにテーマを設定して、グループワークを行っています。今までと違うスタイルの研修で受講職員にも好評です。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●セラピストも含め関係職員が集まり、総合的に検討会を開催している。 ●定期的に検討の場を設け、必要な支援等確認して計画を作成している。 ●適切な支援を提供するためには、もっとチームアプローチに配慮する必要があると思う。 	○関係職員が集まって、全ケースについてケース検討会を開催して個別支援計画を作成しています。担当レベルではなく、総合的な評価に努めています。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●アセスメント研修の復命研修があったが園内での活用はされていない。 ●標準化されたアセスメントツールは、無いように思う。 ●現在、アセスメントツールを作成中である。 ●アセスメントツールについては、現在、検討・作成中である。 	○現在、統一・標準化されたアセスメントツールはありません。適切な支援を組み立てるためには適切なアセスメントが必要不可欠です。必要なアセスメントツールを確保していきます。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●必要な場合は家庭訪問を実施し、スケジュール作成等を含め、必要と思われる家庭支援を実施している。 ●幼稚園等への移行支援では、移行がスムーズに進むようにアフターフォローに努めている。 ●児童発達支援センターの柱である「発達支援」、「保護者支援」、「地域支援」を3本柱として重点項目を設定している。発達支援では構造化支援の充実、保護者支援では保護者教室の充実強化に努めている。地域支援では相談支援体制の強化を図り、相談支援専門員1人体制から2人体制にパワーアップした。 	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●よりポイントを絞った支援項目、目標設定を行い、日々の支援との連動を図っている。 ●クラス内で個別支援計画を意識した支援に努めている。 ●セラピスト同士で確認し合い、目標や発達段階に繋げている。 	○各クラスの行動記録様式は、個別支援計画に沿った項目にしてあり、日々の療育の中で支援計画が意識出来るように配慮しています。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●各クラスの決め方がバラバラでクラスによってはリーダーが決めている。 ●クラスで一月に一度、狙いや目標を決めてプログラムを組んでいる。 ●クラスで定期的話し合いながらプログラムを決定している。 ●プログラム立案のために毎週話し合いの機会を持っている。 ●クラス主任を中心に立案し、前日に準備し、日々の療育を進めている。 ●チームで行うことで、最善のアイデアが出ることが多い。 	○今年度から毎日定時に各クラス単位で打ち合わせを行うようになりました。出来ない場合もありますが、定着を図るべく指導に努めています。
	15	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●児童の特性上、パターン化している部分もある。 ●他児に興味を持ち始める児童など、状況に応じて対応を工夫している。 ●日々、子どもの状況や個々の特性に応じた取組を行っている。 ●色々な人の意見をもらいながら、工夫して取り組んでいる。 ●子どもの興味・関心に応じてプログラムを作成・実施している。 	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの状態に応じた個別支援計画の策定に努めている。 ●個別の課題と集団での課題を整理し、目標設定を定めている。 ●子どもの状況に応じて他クラスとの交流を図っている。 	
17	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●日案を基本として、クラス主任を中心に打ち合わせを行っている。 ●スムーズに療育が進むように、療育前に意識して取り組んでいる。 ●朝の打ち合わせをする時、当日入る非常勤職員にも子どもの様子を必ず伝えるようにしている。 	○支援開始前の朝の打ち合わせは、各クラスとも定着しています。	

関係機関や保護者との連携関係	18	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返り、気付いた点等を共有しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●記録などの事務作業に追われ、打ち合わせが十分できない。 ●日々の振り返りが十分できていないので、組織としてしっかりとした枠組みを構築することが必要と思う。 ●十分出来ない時もあるが、日々の振り返りを必ず行っている。 ●一定の時間を決めて、各クラスが打ち合わせを行うようにしている。 ●時に出来ない場合があり、時間の使い方を見直したいと考えている。 	○支援終了後の振り返り等の大切さを認識しており、支障のない限り、一日の振り返りを行うようにしています。
	19	日々の支援に関して記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●記録などの事務作業に追われ、打ち合わせが十分できない。 ●記録の取り方、ポイントなど再度検討する必要がある。 ●日々の記録の取り方、記録方法等の改善を図っている。 ●毎日活動記録を記入し、食事、排泄、言語、認知、行動等の評価項目ごとに評価・記入し、基礎資料として活動記録の活用に配慮している。 	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●6ヶ月に1回、心理職、PT、OT、STなどを含め、検討会を開催して見直しを行っている。 ●定期的なモニタリングだけではなく、必要に応じて見直しを行っている。 ●毎月の目標設定時にクラス担当者で話し合い、達成度の評価と療育内容の修正を行うようにしている。 	○児発管やクラス担当者だけではなく、PT、OT、ST、心理等の関係職員全員で個別の検討会を開催して、総合的な視点に基づいて、個別支援計画を策定しています。
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が出席しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●クラス主任や児童発達支援管理責任者が出席している。 	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●親子通園時や電話等で意識的に情報共有に努め、連携している。 ●ケース状況によっては、市の関係機関(障害福祉課、子ども家庭課、保育課、保険課など)や児童相談所等と連携を図りながら支援している。 	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●PTやOTは、外部機関との連携は割りとあるが、保育士は少ない。 ●児童によっては、医療的ケアの確認のため保護者に同行して、主治医から直接確認している。 ●積極的にセラピスト同志で情報交換に努めており、直接リハビリ見学にも出かけるようにしている。 	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●必要に応じて児童の通院に担当職員が同行するなど、医療機関との連携に努めている。 ●医療ケアが濃厚な児童は、保育士対応の留意点を明確にしている。 ●リスクを伴うケアについては、主治医に指示書を記入してもらうなど、医療的な要配慮事項を確認しながら、慎重に対応するようにしている。 	
	25	移行支援として、保育所や認定子ども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●クラスによっては、子どもの様子を見に行くなど、視点を共有している。 ●相互に訪問を行うなどして、情報共有や支援内容の確認を行っている。 ●毎月、市の就学支援委員会に児童発達支援管理責任者が出席し、就学に向けて情報交換や検討を行っている。 	
26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●支援シートなどを用いて、情報共有、支援の引継ぎ等を行っている。 ●特別支援学校等に訪問したり、教職員が来園するなどして、移行児童の支援等に関する情報交換を行っている。 ●支援級に移行する児童は、支援級の先生と引継ぎを行っている。 		
27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●先進施設に職員を1日派遣し、支援状況を体験する交流研修を実施している。 ●他施設との交換研修では、新たな発見やアイデアを得ている。 ●交流体験研修の報告を参考にして日々の療育に生かすようにしている。 ●施設長の連絡会や現場レベルの職員の連絡会議には積極的に参加して支援に役立つ情報の確保に努めている。 	○今年度から市内の他児童発達支援センターと交流研修を開始し、相互理解と啓発に努め、連携・協力体制を強める取り組みを始めています。	
28	保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や障害のない子どもと活動する機会があるか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●個人交流(個別に交流)や集団交流(集団での交流)があり、地域の保育園児との交流機会を定期的に確保している。 ●交流の機会はあるが、感染症の流行などで中止する場合も多く、十分なレベルではないと感じる。 ●相互の園で感染症の流行などがある場合は、中止となる場合が多い。 		

保護者への説明責任等

29	自立支援協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●「特別支援教育協議会」や「子ども発達支援連絡会議」など市主催の連絡会議には、施設長が出席している。 ●藤沢市の自立支援協議会には、児童支援部会がなく、その必要性を感じている。 	
30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●日々保護者との意思疎通に努めている。また、必要があれば面談も随時設定している。 ●頻りに親子通園があるが、その際、必ず日々の様子等を伝えている。 ●親子通園時や電話等で保護者との情報交換を積極的に行っている。 ●親子通園日などを設け、情報共有、支援内容の確認を行っている。 ●個別リハビリは、保護者に同席しているので情報交換に努めている。 	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者等に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っているか。	○	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者支援の重要性を認識し、保護者教室の充実に努めている。 ●他施設と比較して、保護者教室の開催頻度は非常に多いと思う。 ●保護者教室を積極的に開催し、障害特性等の理解の促進を図るなど、保護者支援に努めている。 	○保護者が子どもの障害理解を深めることは、非常に大切なことです。その意味で保護者教室等を充実させることについて、園として努力を続けています。
32	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●入園説明会や個々の契約時等に個別に詳細・丁寧に説明している。 	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●定期的に保護者との個別面談の機会を設定し、支援内容、変更点、修正点等を確認し、保護者から同意を得るようにしている。 	
34	定期的に保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●ケースの状況によっては、随時面談機会等を設定し、必要があれば、家庭訪問し、構造化等の視覚支援の助言等も行っている。 ●クラスで対応出来ない場合は、上司と協力して対応するようにしている。 ●家での様子を聞き、親の困り感を踏まえて療育を行うよう意識している。 ●定期面談に加え、日々の相談シートで保護者の相談を受け付けている。 ●個別リハビリでは、狙いや目標を伝え、承諾をいただいている。 	○定期的に保護者との面談機会を設定するとともに、面談希望の有無に関わらず、助言等が必要と思われた場合は、面談、電話、家庭訪問等により迅速に対応している。
35	父母の会の活動を支援したり、保護者会を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者に対する協力(場所の提供)やクラス単位の懇談会への出席等について適宜協力するようにしている。 ●クラス主任や児発管を中心に対応するようにしている。 ●内容によっては、園として組織的に対応するように配慮している。 ●以前は父母の会のようなものがあったが、今活動しているか分からない。 	
36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速に対応しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●保護者が安心して子どもを預けられるように、関係性を築くように配慮している。 ●保護者から何らかの相談があった場合は、早目に面談機会を設定し、担任や児発管などで組織的に対応している。 ●相談内容によっては、園の相談支援専門員に繋げている。 	
37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に発信しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●毎月、園だよりを発行し、活動予定、保護者教室の開催、必要な伝達事項等を含め、その都度編集会議を開催して紙面の充実と情報伝達に努めている。 	
38	個人情報の取り扱いに十分配慮しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●ダブルチェックするなど、個人情報の取り扱いについては、慎重な対応に心掛けている。 	○USBメモリ等を廃止し、サーバーに切り替えるなど、個人情報の取り扱いには、十分配慮しています。個人情報の入った書類を配布する場合など必ずWチェックしてザックに入れるようにしています。

非常時等の対応	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●個別のリハビリでは、保護者に積極的に情報を伝えるようにしている。 ●言語等の情報伝達が難しい児童については、視覚的な情報伝達(コミュニケーションカード等)を積極的に活用している。 	
	40	事業所の行事に地域の住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を行っているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●太陽の家まつりでは、地域住民も多数参加して実施している。 ●社会体験活動では、地域に積極的に出たり、関わるようにしている。 	
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を作成し、職員や保護者等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●避難訓練は、毎月実施しているが、現行の防災マニュアルは不十分なので見直しが必要であり、継続的に見直し作業を進めている。 ●津波、火災、洪水等を想定して、月1回避難訓練を行っている。 ●感染症マニュアルは策定済みで年1回感染症研修会を開催している。 	○津波や洪水等の大規模災害が発生した場合のマニュアル整備の必要性を認め、様々な非常災害を想定したマニュアル整備に向けて、鋭意準備を進めています。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●園全体で月1回避難訓練を実施し、各クラス内で反省等も行っている。その内容を全体で発表するようにも良いのではないかと。 ●年1回総合防災訓練を実施し、近隣消防署の協力を得て、起震車による地震体験、煙テントによる煙体験訓練、模擬消火器による模擬消化訓練を保護者参加の元で行っている。 	
	43	事前に服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●肢体クラスでは、保育士や看護師にも情報伝達に努め、体調把握に努めている。 ●保護者からの聞き取りや児童の状況が記載された資料を確認するなどして、服薬内容、てんかん発作、医療的な要配慮事項等の確認・把握を行っている。 	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●厨房や栄養士、食事介助の保育士と連携し、給食の誤提供が無いように提供方法の確認作業を決めて対応している。 ●医師の指示書だけではなく、直接医師に確認したり、保護者からの聞き取り調査を実施している。 ●食物アレルギー児童の配食には十分に配慮して対応している。 ●給食トレーの色を変える、除去食の種類がすぐに分かるように目印を置くなど、視覚的に区別できるように配慮している。 	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●毎月のひやりハットを集計・整理して、グラフ化するなど全職員にヒヤリハットの傾向や重大事故に繋がる事例等、リスクに対する認識を深める努力を行っている。 ●ハイリスクなヒヤリハットは、終礼等で全職員に周知するようにしている。 	○ヒヤリハットを集計してグラフ化するなど、リスクの状況を職員に周知し、リスクを回避する取り組みを継続的に行っています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保するなど、適切な対応をしているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●外部の講師(市虐待担当、県中央児相職員)を招聘して、虐待防止研修を企画し、虐待に対する職員の認識を高めるとともに、虐待の早期発見と早期対応に関するポイント等の研修機会を持っている。 ●虐待の心配があるケースでは、児童相談所と連携を密にして情報交換に努めている。 	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもの保護者に事前に説明し、了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○	<ul style="list-style-type: none"> ●重症心身障害児など肢体不自由児童については、座位保持のため胸ベルトを使用しているが、囑託医の整形外科医の指示に基づいて行っている。この点については、個別支援計画に必ず記載するようにしている。 ●医師の指示がある場合でも、必ず保護者の同意を得ている。 	○身体拘束に当たる行為は一切行っていません。座位保持ベルトを使う場合は、整形外科医の指示を受け、保護者の同意を得て対応しています。個別支援計画にも記載しています。	